



じぶん未来BOOK

『じぶん未来BOOK』で憧れた記憶が 夢をあきらめない基盤に

— 北海道・市立 函館高校 —

取材・文／太田知子

ガイダンス総学部部长
渡辺儀輝先生

School Data

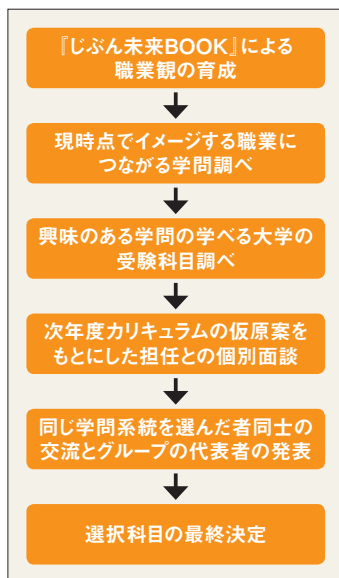
生徒数／949人(男子409人・女子540人)
普通科24学級
進路状況(2011年度)／大学・短大進学62.1%、専各進学15.9%、
就職5.4%、その他16.6%
北海道函館市柳町11-5
TEL 0138-52-0099
URL <http://www.hmshs.jp/>

■「総合的な学習の時間」の 指導教材



同校の「総合的な学習の時間」の実施内容は「指導案集」としてまとめられ、HPにも公開されている。ほかにも全選択科目の内容がわかる「ガイダンスブック」、2学年後半から使用する「課題研究論文作成の手引」など独自の資料が充実。「細かな部分まで文章化して共有すると、教員による指導のバラツキを少なくできます。また内容の精査や改善のための話し合いもしやすくなります」と渡辺先生。

■「進路選択学習」の主な流れ



さまざまな資料を読み、調べたことを文章にまとめるプロセスの中で、徐々に将来についての考えを深めていく。また同じ学問系統を選んだ生徒同士が、互いの調べ学習の成果を発表し合い、情報交換を行う機会も将来を考える際の刺激になっている。

「進路選択学習」で活用 選択科目決定のための

市立函館高校は7年前に函館東高校と函館北高校が統合されて開校した、函館市で唯一の市立高校。「総合的な学習の時間」については、函館東高校の時代から力を入れ、実績を重ねてきた。「わが校には『総合的な学習の時間』を企画・運営するガイダンス総学部という分掌があり、毎年全時限の授業の指導案を冊子にしています。どのクラスでも均質な授業ができるよう、この冊子をもとに学年ごとに事前打ち合わせを行っています」というガイダンス総学部長の渡辺儀輝先生。

同校は進学重視型の単位制高校で、120を超える選択科目がある。生徒は志望進路に応じて自分で時間割を組むことになる。このため1学年前半の「総合的な学習の時間」は、選択科目の決定を目的とした「進路選択学習」を実施。将来の仕事や学びたい学問を考えて自己理解を深めたり、文章作成や発表を通じて「ミニ

ケース」を育てることが主なねらいとなっている(詳細は下図)。

この進路選択学習の第1回目の授業で、昨年度から『じぶん未来BOOK』を使い始めた。「以前はいきなり志望学問分野を考えることから始めていました。しかし将来にかかわる大事な選択の場面でも、働くことにまったく触れないのはおかしな話です。長年いい教材を探しており、『じぶん未来BOOK』を知ったときは、『これだ!』と思いました」と渡辺先生。

先生はまず、手に取るかと自然にページをめくりたくなる写真やデザインに魅かれた。文章はどれも「熱」があり、仕事への憧れを感じさせる内容だった。貸し出されるDVDも社会人が仕事のやりがいや高校時代にやっておくといふことを語る内容で、本と組み合わせることでいっそう効果があがると感じた。

「自分も持っている仕事のイメージがいかに乏しく、仕事はもっと多種多様で働く意味も奥深いか、ということを生徒に気づいてほしいと思っていました。限られた時間でそこまで伝えるのは至難の業ですが、

これならいけると思いましたね」。

志望分野や志望校選びの根拠を きちんと語れる生徒が増加

授業は1学年全クラス合同で実施。DVDを上映した後、リクルート社製のワークシート「未来に近づく方法をイメージしてみよう」に取り組んだ。ほとんどの生徒が集中しており、夢中で本を読む姿が多く見られた。「この本に出てくるような大人になりたい」と言う生徒もいて、渡辺先生は効果のほどを実感したそうだ。

その後の進路選択学習で志望する学問分野や志望校を選ぶときも、「なぜその分野や学校を選んだか」について以前よりきちんと語れる生徒が増えたという。

「今回に限らず、今後、受験勉強を投げ出しそうになったり、社会人生活で挫折しそうになったりした時にこの本を読んだ時の感動を思い出してほしいですね。純粹に『こんな大人になりたい』と憧れた記憶が、夢や目標をあきらめない力につながるいいなと思っています」と渡辺先生。

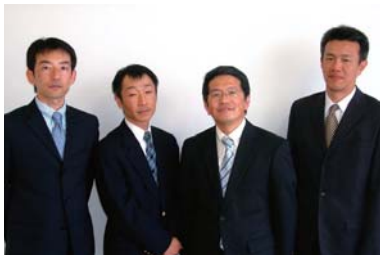


じぶん未来BOOK

『じぶん未来BOOK』は進路を切り拓く鍵となる「人との出会い」の第一歩

— 秋田・県立 仁賀保高校 —

取材・文／太田知子



左から
キャリア教育部部長
五十嵐恒憲先生
1学年主任
佐藤信先生
2学年主任
狩野光一先生
2学年担任
太田弘史先生

School Data

生徒数／442人(男子192人・女子250人)
普通科9学級、情報メディア科3学級
進路状況(2011年度)／大学・短大進学25.2%、専各進学28.9%、就職43.7%、その他2.2%
秋田県にかほ市象潟町字下浜山3-3
TEL 0184-43-4791
URL <http://www.nikaho-h.ed.jp/>

Benkyo&Volunteer 同好会の主な活動

- 津波で流された缶詰や被災地の物産品を販売し、被災地へ売上金を寄付
→接客・サービス業志望者中心に実施。被災地には8回訪問。のべ約50人が参加。販売戦略会議と販売後の検証会も実施
- 訪問先の選定・依頼・実施内容の交渉などすべて生徒が行うインターンシップ
→病院・保育園などが中心。約60人が参加
- 特別養護老人ホームでの夏祭りの準備
- 身体障害者施設での介助
- 小学生の体験学習補助
- にかほ市民生児童委員協議会との交流会
- 在宅介護向けの配食サービス会社と提携し、季節感のあるデザートを企画

この活動で自信をつけ、志望大学の教授に直接メールで問い合わせるなど、進学に関して主体的に行動する生徒が出てきた。また校外に限らず、学校内でも外部講師の案内や行事の司会を生徒が行うなど、「生徒主導」を推進。「今まで教員が手を出して、生徒の成長の機会を奪っていることがあまりにも多かったと反省しています。教員も生徒が自ら動き考える機会を与え見守る役割への意識改革が必要です」と五十嵐先生。

授業の感想

- 世の中にはたくさん仕事があって、夢に向かって頑張ってる人はカッコいいと思った。
- 将来の自分が何になりたいのかちょっとわかってよかった。
- 自分の夢に向かって勉強する大切さがあった。
- 自分の将来について、とてむためになりました。もっと就きたい仕事について調べていきたいと思いました。
- 自分のタイプを診断して向いている職業を調べたところ意外なものがたくさん出てきておどろいた。自分の将来をもっと深く探求してみたいと思った。
- 今まで知らなかった職業などがけっこうあったのでおもしろかったです。自分のやりたいことを早くみつきたいです。

アンケートでは授業が「とてむためになった」は18%、「ためになった」は73%で、あわせて91%が肯定的な評価だった。また「仕事をもちっと調べようと思った」が82%、「夢をみつけよう、もちっと調べようと思った」が79%など、前向きな意欲につながっていることがわかる。

秋田県立仁賀保高校は、大学進学から就職志望まで幅広い層の生徒が通う進路多様校。自信に乏しく、基礎学力に不安のある生徒が多いことが大きな課題だった。「この状況を変えたい」と、昨年度から本格的な改革が始まった。「基本方針は生徒を学校で抱えこまず、外に出して地域の人たちに育ててもらおうということ。さまざまな経験を積み、自分で考え道を切り拓く力をつけるこそが真のキャリア教育だと考えました」という五十嵐恒憲先生。

昨年度、先生は「Benkyo&Volunteer(勉強・ボランティア)同好会」を発案。ここに集った生徒27人が中心となり生徒が受け入れ先を開拓し、参加者を全校から募るインターンシップなどを行った。生徒は仕事や将来に対する考えを深め、行動力や主体性の面でも大きく成長した。

2012年度にはキャリア教育部が設立され、五十嵐先生が部長に就任。昨年の実践内容を総合学習に移植する作業に取り組んでいる。並行して学外のイベントも続々と進行中だ(詳細は上図)。

「仕事の好み」のタイプ診断が記事を読む原動力に

『じぶん未来BOOK』とリクルート社製のワークシートによる進路学習は、以前から総合的な学習の時間の1コマを使って1学年全員を対象に実施している。

主な目的は仕事の多様性に気付くこと。「大手電子部品メーカーの企業城下町という土地柄、一番身近なのは電子部品の製造関連の仕事です。仕事の種類をあまり知らない生徒が、50人の仕事人の記事を読み「こんな仕事があるんだ」と気付くのは意義深いこと」と五十嵐先生。

昨年度1学年の担任として授業を行った太田弘史先生は、授業展開の良さが印象深いという。「将来の夢を聞いても生徒は答えに窮しますが、ワークシートではまず『周囲に影響を及ぼすのが好き』など仕事の好みのタイプ診断を行います。生徒は俄然、引き込まれていました。自分と同じタイプだという親近感から、知らない仕事、思ってもみない仕事にも興味をもち、真剣に

読んでいました(詳細は下図)。

昨年度、1学年主任だった狩野光一先生は、用意されている指導案が明快で、全クラスの担任が事前に指導のポイントを理解できたのがよかったという。「仕事の好みを切り口に将来の仕事を考えるという展開はとてもわかりやすかったです」と狩野先生。今年度の1学年でも引き続き同様の学習を実施する予定だ。「生徒には進路を自分で選び取る力をつけてほしい。『じぶん未来BOOK』もそのために生かしてほしいですね」と1学年主任の佐藤信先生。

現実の人との出会いも提供し 将来を考える後押しをしたい

生徒にとって、大人との出会いは将来を考える鍵となる。『じぶん未来BOOK』は出会いの化学反応を味わう第一歩。キャリア教育部の進めるさまざまな活動を通じて、現実の世界でも多くの人と出会い、二歩、三歩と視野を広げることが、夢への道を進む力になると考えている。